

秒毎に16枚連続撮像している。

鼻涙管通水試験の結果と比較すると、本法では生理的状态での涙の流れをとらえることができ、機能的閉塞の診断も可能であった。

9. 甲状腺機能検査法 CK-T₃R, CK-T₄R の基礎的検討

三島 厚 大島 統男
佐々木常雄
(名大・放)

甲状腺機能検査法として、血清中のサイロキシン結合蛋白の不飽和結合能を利用した T₃ レジン摂取率とサイロキシンの測定は広く利用されている。ここで報告する T₃ 摂取率測定キット CK-T₃R とサイロキシン測定キット CK-T₄R は吸着剤としてシリケートを使用するものである。検討した項目は次の通りである。

- (1) インキュベーション時間の影響 (CK-T₃R: 5分~60分, CK-T₄R: 15分~120分)
- (2) インキュベーション温度の影響 (CK-T₃R 及び CK-T₄R: 15°C~37°C)
- (3) 再現性 (CK-T₃R 及び CK-T₄R: 45 検体づつ)

結 果

(1) CK-T₄R におけるインキュベーション時間は15分ではやや高値を示すので30分以上が望ましい。

(2) インキュベーション温度はいずれの温度でも満足すべき値を得た。

(3) 再現性については、ばらつきが少なく安定した測定値がえられた。

更にこれらキットの特長は吸着剤としてシリケートを使用しているので、操作は比較的簡単でエチルアルコールのような抽出剤を必要としない。又検体量は0.1 ml と微量である。

10. 甲状腺機能検査法 CK-T₃R, CK-T₄R の臨床的検討

大島 統男 三島 厚
佐々木常雄
(名大・放)

in vitro 甲状腺機能検査法として、T₃ 摂取率としては CK-T₃R, サイクロキシン測定法としては CK-T₄R の各キットを使用する機会を得た。正常、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎等を含む約100検体につき、Triosorb 法、Resomat T₄ 法と、CK-T₃R 法、CK-T₄R 法を行った。CK-T₃R 法は Triosorb 法とよく相関し、相関係数は $r=0.9179$ であった。また CK-T₄R 法も Resomat T₄ 法とよく相関し、 $r=0.9198$ であった。各疾患別に検討すると CK-T₃R 値は Triosorb 値より約10高値を示し、また CK-T₄R 値は Resomat T₄ 値よりやや低値を示した。

CK-T₃R 法の正常値としては、33~44%がまた CK-T₄R 法の正常値としては、4.5~11.5 μg%が、それぞれ適当であった。

11. 甲状腺機能亢進症に合併した鉄欠乏性貧血とその治療経過

齊藤 宏
(名大・放)

甲状腺機能亢進症は女性に多い。女性には鉄欠乏性貧血も多い。それ故、両疾患の合併も屢々みられる。ここでは、甲状腺機能亢進症の¹³¹I治療経過中にみられた、鉄欠乏性貧血や、他の合併症の、甲状腺機能亢進症の治療経過に及ぼしたとみられる症状についてのべる。

- ① 子宮筋腫を有する甲亢症では、失血による鉄欠乏性貧血をくりかえした。その時期に応じて T₃RU や T₄ の値の低下傾向が認められた。
- ② 甲亢症治療中胃癌を発病した患者ではその間、T₃RU や T₄ 値の低下が認められた。貧血も存在した。